

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470801208	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	社会福祉法人横浜長寿会		
事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫		
所在地	(236-0014) 神奈川県横浜市金沢区寺前2丁目23-35		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成28年1月4日	評価結果 市町村受理日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「金沢文庫」で有名な称名寺や海の公園に近い、温かみのある住宅地の中にあります。地域の活動も活発で、夏祭りの子供神輿や、お正月の厄落としの獅子舞などが訪れて下さり、地域に溶け込み皆さん生活を送っています。
ゆっくり・ゆったり・私らしくを理念に置き、お一人おひとりが自分らしさや誇りを持ち、ホッと安心でき、人の温もりを感じながら生活を送っていただけるようスタッフ一同心を込めてサービスを提供させていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年2月3日	評価機関 評価決定日	平成28年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行線「金沢文庫駅」下車徒歩12分、また、京急バス「柴町」行きでバス停「称名寺」下車、徒歩2分の住宅街にあります。鉄筋造り2階建ての1階にあるグループホームです。2階は別法人の障がい者グループホームがあります。付近は古くからある住宅地で、金沢八景の称名寺などの寺や古い商店、コンビニなどがあり、海の公園も近くに 있습니다。運営法人は横浜市で介護老人福祉施設、ショートステイセンター、地域ケアプラザの居宅介護支援事業を展開しています。

<優れている点>

1ユニットのこじんまりした家族集団で、開所10年になります。事業所の理念である、「ゆっくり・ゆったり・私らしく」を大切にして、利用者や家族、支える職員、管理者が生活を満喫しています。ホームに笑い声が響きわたり、利用者の自分らしく安心した生活が見られます。長く勤める慣れた職員が多く、健康やケガ、事故ではすぐ対応し、利用者との信頼関係が出来上がっています。また、職員への支援技術は、法人本部でのテーマ検討や研修での交流、新人の集合研修、指導員研修、指導員による事業所研修でレベルアップしています。

<工夫点>

- ・部屋の壁やベット周りにも手すりを設置してあり、安全に配慮しています。さらに廊下まで伝わって歩けるように手すりがついています。
- ・新入職員の研修には指導員が付き、法人本社で双方の指導が行われています

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時からの理念を今も引き継いでおり、会議の場や日常の中で声を掛け合い、実践へとつなげます。	事業所の理念「ゆっくり・ゆったり・私らしく」は、開所した時に職員と作り、変わっていません。職員は長期の勤務者が多く、法人の人材育成で得た支援技術に支えられ、利用者の笑い声が絶えません。全体会議の場では、気になっていることを話し合っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域行事への誘いをいただき、参加しています。又、日常的に散歩に出かけ、あいさつを交わしあい、時には立ち話をしながら、互いに顔見知りの関係を築きます。	称名寺や金沢文庫が近くにあり、伝統ある町内に溶け込んでいます。自治会館や消防団、商店が周りにあり、夏祭りでは子供神輿が立ち寄り、正月には獅子舞が訪問しています。敬老の日には町内会からカードも届き、地域と良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事への参加や、日常の生活での地域の方々との自然な触れ合いを通して、認知症の方々への理解を得ただけのように取り組みます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通してグループホームでの利用者の生活の様子を知っていただき、家族や地域の方々からの評価や助言、要望をいただき、より地域とつながってサービスを提供できるように取り組みます。	運営推進会議は今年度2回開催し、今年度中にもう1回開催する予定です。近所に在住の自治会長や民生委員などが参加し、日常活動の報告や事故と対応策、外部評価の結果と課題などを報告しています。災害時の近隣の協力も依頼しています。	今後は回数を増やし、関係者による話し合いの機会と協力関係がより強固に築かれることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	金沢区はいかい高齢者SOSネットワークに登録し、連携しています。また、介護相談員を受け入れ、助言をいただきながら協力関係を築きます。	昨年立ちあげた、区内グループホーム連絡会に参加し情報交換しています。ケースワーカーも2ヶ月に1回来訪しています。高齢者SOSネットワーク活動への参加、区役所の感染症研修会、県グループホーム連絡協議会にも参加し、研修にも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束が起す弊害を知ることや、利用者一人一人についての理解を深めていくこと、又、スピーチロックを含め、会議において話し合いながら身体拘束をしないケアを提供できるように取り組みます。	言葉遣いの研修が運営法人であり、慣れによる言葉遣いには気を付けています。新任職員は本社で身体拘束の研修を受けています。名前の呼び方は、「さん」付けとしています。リビングの入口は鍵をかけておらず、夕方の不安になる時間帯には、歌を唄い気を紛らす工夫をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待について理解を深め、スタッフが心の余裕を持って仕事に取り組めるよう勤務内容を見直しながら、虐待につながらないケアに取り組みます。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について理解し、必要に応じて支援につなげていくことができるように努めます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約内容や重要事項についての説明を行い、家族や利用者の入居に対する不安や心配事などを聞き、安心して入居生活が送れるように努めます。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族来訪時や近況を伝える手紙、電話などで話しやすい雰囲気や関係を作り、意見・要望・苦情など何でも伝えていただけるよう働きかけます。又、日常の関わりの中で利用者から意見・要望など聞いた時には、口頭や記録などで申し送り、サービスへとつなげます。	家族には手紙で毎月の様子を伝えて、話題を提供しています。家族の訪問時や日常の電話でも、日々の様子や変化を話し、意見や要望も聞き安心感出来るようにしています。面会は夜間でも気楽に立ち寄れます。家族や利用者の様子は、申し送りノートに記録し、確認と共有をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議でスタッフに意見や提案を出してもらい、話し合いをしながら運営に反映させます。	毎月の会議のほか、職員の担当業務を通して意見を出し合い、運営や環境整備に反映させています。個別面談や勤務体制、入居希望者の情報、研修への参加なども相談合っています。法人内部の研修や個別課題では他事業所と情報交換しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の経営会議や役職者会議において、運営状況の報告・点検を行い、スタッフの勤務状況や労働環境等の問題・課題について検討し、職場の環境整備やスタッフが成長・育成できるように取り組みます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人で委員会を設置し、人材の育成・成長への取り組みを強化します。法人の内部研修や外部研修への参加を行い、参加後は研修報告を行い、研修内容を全スタッフで共有できるように取り組みます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内部の集合研修や、役職者会議を通して他事業所のスタッフと交流し意見交換をする機会を設け、サービスの向上に努めます。また、同区内のグループホーム連絡会に参加し、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上へとつなげていく取り組みをします。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の見学や面接で本人の様子を知り、スタッフ間で情報を共有し、利用時に不安や戸惑いがないよう努めます。又利用時には、様子を細かく記録し、その方のことをよく知ることに努め、何でも話せ、安心して生活を送っていただけるよう取り組みます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前の見学や面接で家族の不安や要望・思いを聞き、受け止め、安心してサービスを受けていただけるように努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に本人と家族にお会いし、思いや生活習慣、趣味、嗜好等聞き、必要なサービスを提供できるように努めます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人一人をよく知るように努め、個々のそれまで培ってきたもの、思い、今出来ることを大切にしながら、人生の先輩として教えていただきながら、共に暮らす関係を築いていくように努めます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子をこまめに伝えるとともに、家族の思いをきちんと聞き、互いに意見を出し合いながら、共に利用者を支えていくという関係を築いていくよう努めます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人に気持ち良く来訪していただけるように、又、気軽に電話を掛け合えるように配慮し、馴染みの関係が途切れないように配慮します。	訪れる友人たちも高齢となり、今では家族の来訪が殆どです。家族の来訪時には歓迎し、一緒に病院や買い物に行っています。美容は職員がカットしています。また、職員と一緒に楽しく歌を歌ったりしながら、楽しい生活を送っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	その日その日の一人一人の心身の状態や気分を把握し、利用者同士が互いに協力し、理解しあい、関係が円滑になるように働きかけます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所に移られるときには、本人の生活が断ち切られないように、なるべく細かに情報を提供します。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中での本人の発する言葉や表情などから、思いや要望をくみ取り、又、家族からも情報をいただきながら、本人の意向・希望を把握するように努めます。	利用申し込み時に、自宅で詳しく様子を聞いています。利用者・家族の思いや意向、暮らし方の希望、生活歴はアセスメント表にまとめています。さらに、毎日の変化を捉え、情報共有しています。意向の把握が困難な利用者には、表情や反応で確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にこれまでの暮らし方の情報を得るとともに、入居後も関わりの中から知ったことを申し送りや会議を利用し、情報を共有していくように努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	会話や表情、毎日の記録、働きかけにより、現状を把握し、記録や会議などで全スタッフが現状の把握ができるように努めます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で利用者や家族の思いや意見を聞き、会議の中で個々についての情報を出し合い、本人にとってよりよい生活とは何かを考えながら計画を作成します。	月1回の職員会議でカンファレンスを兼務しています。職員全員で、利用者それぞれの様子や変化を個別に確認しています。モニタリングしても変化が少ない利用者が多く、ケアプランの目標を継続活用しています。	長年勤めたベテラン職員に見守られ問題は発生していませんが、期間が来ましたらアセスメントを行い、再発行されることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の健康状態や食事摂取状況、過ごし方などを記録に残し、情報を共有し、会議の中で話し合い、実践につなげます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の様子や思いの変化を受け止め、今その方にとって何が必要かを常に考えながら援助につなげます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事や日々の散歩などを通し、馴染みの関係を築くことで、地域の中で安心して生活を送っていただけるように援助します。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望を聞きながらかかりつけ医を決めています。入居後も継続してそれまでのかかりつけ医に診てもらっている方もいます。又、受診には必要に応じて管理者も付き添い、適切な医療を受けられるよう援助します。	利用者は、本人や家族の希望に沿って、入居前からのかかりつけ医やホームの訪問医による受診をしています。通院は家族同行が基本ですが、状況に応じて通院支援をし、適切な医療が受けられるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の健康観察をしっかりと行い、受診時には日頃の様子をかかりつけ医に報告するとともに、緊急時にはかかりつけ医に相談しながら、速やかに適切な医療を受けることができるように援助します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が付き添い、必要な情報を渡し、適切な入院治療ができるように援助します。又、退院に向けた援助ができるように、入院中の様子を把握し、退院時にも管理者が付き添い病院からの情報をいただきます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の意向を踏まえ、ホームで出来ることと出来ないことを説明し、家族やかかりつけ医とその都度相談しながら方針をたて、スタッフ間で情報を共有しながら援助します。	看取りの経験があります。利用者の重度化や終末期には、家族の希望を聞き、事業所で出来ることを伝え、医師や家族、職員など関係者で話し合って支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には管理者へすぐに連絡を取り、指示に従い動けるようにします。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	同じ建物内の別法人のグループホームのスタッフとも顔見知りの関係を築き、互いに協力しあう関係づくりを行います。	概ね1年に1度避難訓練を行っています。水や食料は3日分を目安に蓄えています。地震や火災発生時対応のフロー図や、避難経路を事務室に掲示し、消防署直通的自動火災通報装置を設置しています。スプリンクラーは猶予期間内であり、現段階では未設置です。	今後は消防署の指導も含めた避難訓練を年2回は定期的実施することや、町内会や近隣住民に声をかけて、協力・理解を依頼していくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議の中で言葉のかけ方を確認しながら、一人一人の人格や誇り、プライバシーを大切に言葉かけができるよう努めます。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねることのないように接しています。職員の不適切な対応が見られた場合、管理者は会議で話題にとりあげ、プリントを配付するなどして、自分の支援を振り返るよう意識を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しかけやすい雰囲気をつくり、一人一人の会話の内容や表情から思いをくみ取り、本人が自己決定しやすいような声かけや対応に努めます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	表情や発する言葉などから、その日の気分や体調をくみ取り、一人一人の生活のペースに沿った援助ができるように努めます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族に協力いただきながら、利用者それぞれの好みを尊重し、その人らしい身だしなみができるように援助します。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を作っている様子や片づけをしているところが直接目に入り、準備や片づけを手伝っていただきながら、食事への興味や楽しみを持っていただけるように努めます。	以前は近隣で食材を買って献立を考えていましたが、現在は季節に応じた行事食も選べる専門業者に依頼しています。定期的にパン食の日を設けたり、誕生会で好きなものを提供するなどして、利用者が楽しんで食事ができるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立の作成と食材の配達を外部に委託し、カロリーと栄養バランスのとれた食事の提供をします。又、一人一人に応じた食事形態で出し、摂取状況をみながら個別に好きなものや食べやすいものを出すなど柔軟に対応します。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時と毎食後、個別に一人一人に合わせた口腔ケアを行います。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	申し送りや会議などで一人一人の排泄パターンを把握し、その方に合った援助を行います。トイレでの排泄を基本に、トイレに行きたいときのサインを見逃さないように援助します。	介助が必要な利用者には排泄を記録し、利用者の排せつパターンを把握しています。様子や間隔から声かけ誘導してトイレでの排泄を支援しています。自宅でのリハビリパンツから通常の下着になるなど、ホームでの支援で自立度があがった利用者もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や運動への参加をさせていただけるように声をかけ、毎日のヨーグルトや水分を十分に摂っていただけるように配慮します。下剤についてはかかりつけ医と相談しながら、個々に応じた使用をします。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	午後の時間帯で、その方の表情や気分を見ながら声をかけ、気持ちよく入浴していただけるように援助します。	基本的には1日おき、午後の入浴としていますが、臨機応変に対応しています。入浴を好まない利用者には、声かけやタイミングなどを工夫して支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動をなるべく促すとともに、一人一人の生活のペースやその日の体調をよく観察し、一人一人に合わせた休息がとれるように援助します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の処方や効能、副作用の説明をファイルに保管し、変更があったときには様子の変化に気を付けていくよう申し送りを行い、状態変化の観察に努めます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	「ありがとうございます」という言葉を大切に、一人一人お願いできる場所はお願いし、張り合いを持って生活ができるよう援助します。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的にその日の気分に合わせて、近所を散歩しています。また、家族との外食や外出を楽しみにしている方もいます。	利用者のその日の気分に合わせて近隣を散歩しています。桜や黄菖蒲、牡丹など季節に応じた花見や初詣など、利用者が戸外の空気や風景に触れる機会を設けています。利用者も歳を重ねて介護度が高くなり、外出を好む利用者が減ってきています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	それぞれの意向を大切にしながら、家族とも相談しながら援助します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話があったり、かけたいという方には、ゆっくりと他の方を気にせず話ができるように、自室へ電話を取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な家具を置き、ホッとできるような空間づくりをしています。また、置物や装飾などで季節を感じられるように工夫します。	共用部分はバリアフリー仕様となっています。換気も掃除も行き届き、快適な住環境となっています。無駄な飾りはせず、普通の家と同じように、季節の花や雛飾り、正月飾りなど、季節を感じられる装飾をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテーブルが二つとソファが一つあり、利用者同士が思い思いに話をされたり、新聞を読んだりされています。また、廊下にも椅子を置き、少し皆さんと距離を置きたい時などに過ごせる場を設けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に今まで使っていた愛着のあるものをお持ちいただくように話しています。家族の写真や好きな絵を飾られる方もいれば、何もないシンプルな部屋の方もおり、一人一人が居心地良く過ごせるよう援助します。	利用者は、タンスや椅子、家族の写真、位牌、好みのポスターやテレビなど、大切な品々や必要な物を持ち込んでおり、一人ひとりの好みに沿った居室となっています。壁やベット周りにも手すりを設置してあり、安全にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	会議の中で一人一人の現在の状況を話し合い、本人の不安や混乱を取り除き、自立した生活が送れるように環境整備をします。		